

GAPに対する消費者評価

佐藤典子

(宮城県農業・園芸総合研究所)

Consumer Evaluation to GAP

Noriko SATO

(Miyagi Prefectural Agriculture and Horticulture Research Center)

1 はじめに

消費者の食の安全・安心への関心の高まりから、農産物の安全性を確保し、さらにそれを証明できる工程管理の仕組みとしてGAP (Good Agricultural Practice)が注目を集めており、今後、農産物取引においても重要な位置を占めることが予想される。GAP導入の主目的のひとつは消費者への安全な農産物の提供であるが、実際に消費者がGAPを農産物の安全確保のための取り組みとして評価するかどうかは明らかになっていない。そのため今後、GAPに対する消費者の意識の把握が十分でないまま生産現場でGAPが推進された場合、GAP導入の目的が十分達せられない可能性がある。

そこで、首都圏及び仙台市在住の消費者モニターに対してアンケートを行い、GAPに対する消費者評価を調べた。前報^{1) 2)}では仙台市在住の消費者モニターにおけるGAPの認知度と経済評価を調査したが、本稿では首都圏在住の消費者モニターに対しても調査を行い、地域による認知度の違いを検討した。また、GAP認証取得農産物の評価と、GAP認証の有無による国産、海外(韓国)産農産物への評価を調査した。その結果を示した上で、GAPに対する消費者の意識について考察する。

2 試験方法

本調査は平成18年から19年にかけて郵送アンケートにより実施した。調査対象は、宮城県農業・園芸総合研究所に登録している首都圏、仙台市及び近郊在住の消費者モニター(以下首都圏モニター、仙台モニター)である。調査対象の属性は表1のとおりである。GAP認証の有無、国産・海外産別の農産物への評価分析には、AHP分析を用いた。

3 試験結果及び考察

(1)消費者のGAPの認知状況

最初に、消費者のGAPの認知状況を調査した。消費者のGAPの認知水準は低いと考えられることから、図1に示した説明文の後に質問を設定した。続いて質問した、「あなたは『GAP(ジー・エー・ピー、ギャップ)』、または『農作業工程管理』、『適正農業規範』を知っていましたか。」への回答を図2に示す。GAPを「説明文の内容も含めて知っていた」人は首都圏モニター、仙台モニターいずれも1割にも満たず、「知らなかった」人

がおおよそ7割近くに達した。本分析の回答者に限れば、GAPの認知度は概して低いと考えられた。

(2)GAP認証の有無別、国産・海外(韓国)産別の農産物(トマト)への評価

次に、消費者がトマトを選択する際の評価基準ごとの重要度とGAP認証の有無、国産・韓国産別のトマトへの評価をAHP分析を用いて調査した。評価基準として、①安全性(農薬残留が基準値を超えないこと、病原微生物に汚染されていないこと)、②環境にやさしい栽培、③値段の安さを設定した。最初にそれぞれの評価基準を比較して、相対的にどの程度重要視するかを質問した。その後、国産及び韓国産トマトにおいてGAP認証の有無別に各評価基準ごとの評価を5段階で回答してもらった。GAP認証は、信頼できる国際機関が認証したものとした。海外の代表として韓国を設定したのは、生食用トマトの輸入量(2004~2006年合計)が最も多いためである。

首都圏、仙台モニター共に重要度が高い順に、安全性>環境にやさしい栽培>値段の安さとなった(表2)。安全性の中では農薬(残留が基準を超えないこと)の方が食品衛生(病原微生物に汚染されていないこと)よりも重要視する傾向にあった(表3)。

次に、GAP認証の有無別、国産・海外(韓国)産別の農産物(トマト)における総合評価値の比較を図3に示す。いずれのモニターにおいても、同じ産地(国産、韓国産)で比較すると、GAP認証があるトマトは、そうでないトマトよりも高く評価された。また、国産・韓国産別、GAP認証の有無別のトマトを評価の高い順に並べると、国産GAP有り>国産GAP無し>韓国産GAP有り>韓国産GAP無しとなった。国産GAP無しと韓国産GAP有りの差は小さく、値段の安さ以外の評価基準で比較するとほとんど差が認められなかった。

4 まとめ

首都圏、仙台市及び近郊に居住する消費者モニターへのアンケート調査から、以下のことが考察された。

まず、消費者のGAPに対する認知は、現状では低いと考えられた。次に、消費者はGAPの内容を理解すれば、GAPに取り組んで生産された農産物を相対的に高く評価する可能性があると考えられた。また、仮に輸入農産物においてGAP認証を取得した場合、消費者評価が高まり、GAPに取り組んでいない国産農産物と同等

に評価される可能性が示唆された。仮にGAP認証を有する輸入農産物が流通した場合、国産農産物の優位性が低くなる可能性もあると考えられた。また、消費者のGAPに対する意識は、居住地により大きな違いはないことが推測された。

本調査は限定されたモニターを対象としており、より一般的な結論を得るためには、さらに調査を重ねる必要がある。しかし、GAPは農業者が実施できる安全安心のための取り組みとして、消費者の評価が得られる可能性が高いと考えられた。

表1 調査対象者の属性

a) 首都圏在住モニター (H19年8月調査, 人)

配布数269名, 回収数227名 (回収率84%)

男	女	無回答	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
46	180	1	8	44	54	62	42	17

b) 仙台市及び近郊在住モニター(人)

①平成18年調査 (H18年11月)

配布数319名, 回収数218名 (回収率68%)

男	女	無回答	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
81	135	2	0	8	29	56	72	53

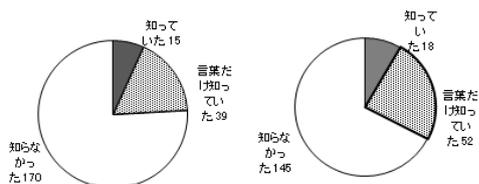
②平成19年調査 (H19年10月)

配布数389, 回収数273 (回収率70%)

男	女	無回答	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
75	196	2	4	30	54	65	69	49	2

農家自身が作物を育てたり、収穫したりする作業の中で、「安全・安心」などに関係するリスク（農薬の使用方法を誤ること、病原微生物が付着すること等）を可能な限り減らすための取組みを行って記録し、農作業を改善していく仕組みを、「GAP (Good Agricultural Practice)」, 日本語で「農作業工程管理」「適正農業規範」と言います。

図1 本調査におけるGAPの説明



首都圏モニター (H19年8月) 仙台モニター (H18年11月)

図2 GAPの認知状況(人)

引用文献

- 1) H. Aizaki, and N. Sato. 2007. Consumers' valuation of good agricultural practice by using contingent valuation and contingent ranking methods: a case study of Miyagi prefecture, Japan. 農業情報研究16: 150-157
- 2) 合崎英男, 佐藤典子 2007. 表明選好法を利用した適正農業規範の消費者評価. 農業経営通信 No. 234:30-33

表2 トマトの選定における重要度

モニター	安全性	環境保全	値段	整合度 (C.I)
首都圏	0.485	0.326	0.189	0.0009
仙台	0.456	0.311	0.234	0.0015

C. I < 0.1の回答者を集計

調査時期: 仙台モニター平成19年10月

首都圏モニター平成19年8月

表3 トマトの選定における重要度

(安全性における重要度)

モニター	農薬	食品衛生
首都圏	0.542	0.457
仙台	0.527	0.473

調査時期: 仙台モニター平成19年10月

首都圏モニター平成19年8月

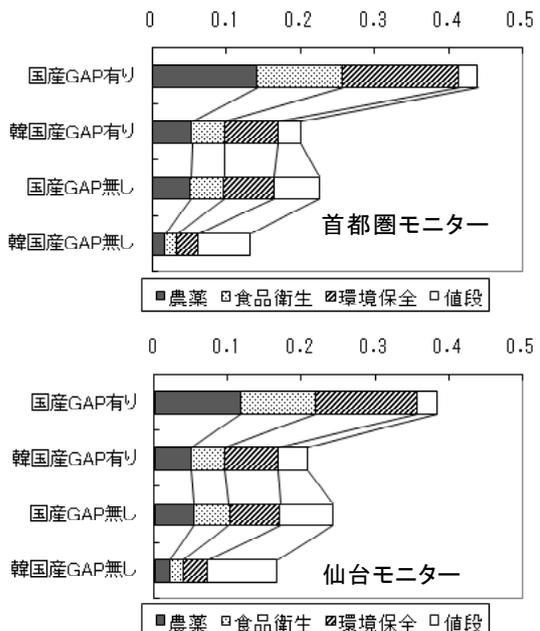


図3 国内・海外産トマトにおける総合評価値の比較 (H19)